

支援方法・手立て一覧

新上五島地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会

「個別の支援・手立て」を作成して気づいたこと

- その時々での指導・支援を振り返るとともに、新たな課題とその支援・手立てを考える機会になった。
- 指導計画を立てる時の児童像は、その時点での発達過程の姿であるから、成長し続ける児童への指導支援の手立ても児童の発達に応じて少しずつ変えていかなければならないと思った。
- 学級集団づくりが不可欠である。児童は、自分の存在を認められる集団があってこそ自分らしさを発揮し、肯定感をもつことができると思う。
- 児童の支援＝保護者との信頼関係の構築であると考える。

2歳

子どもの姿	これまでの指導	効果 ◎○△	背景要因として考えられること	支援・手立ての例	保護者への言葉掛け
・衣服の着脱に困難があり、すぐに諦めて泣いてしまう。「ぎゅー」と言うが手を動かさない。	・自分でするように言う ・援助する ・言葉で教える	△ ○ ○	・しようとしても、手先、足先が思うように動かすできない →苦手意識がつき、意欲がわからない	・履きやすいように置いておく。 ・保育者も一緒にやって見せる	・着脱しやすい素材、方法を伝える ・今「できること」を伝える
・友達を押してしまう(順番待ち、遊具の取り合い)	・押しはいけないと伝える ・手を引き一緒に並ぶ	△ ◎	・並んで待つことが分からない ・言葉で思いを伝えられないもどかしさ	・お話や人形などで仲良く並ぶ雰囲気を感じる。 ・「○○組列車だよ」などの声掛け	
・気に入らないことがあると「いやいやー！」と言い寝転がって泣く。	・受け止める ・待つ ・わがままは通らないことを伝える	○ △ △	・家では思い通り？ ・いきなり言われると無理 ・「できない」と思っている ・切り替えが困難	・生活の流れ、「次はこれ」を伝える	・どんな時にそうなるのかを伝える
・「タオル」「リュック」「パンツ」等の声掛けが伝わらないことがある。	・ゆっくり言う ・指差して言う ・物を使いながら言う	△ ○ ◎		・語りかけを増やす ・絵カード等の活用 ・名前を呼んだ後に言う(注意をこちらに向ける)	
・言葉の発達に遅れがあるが、保育者の発音を真似しようとする。 ○「せんせい」「おいしい」 △「さようなら」→「ら！」 「またあした」→「た！」 「ちょうちょ」→「ちょー」	・単語で区切る ・1音ずつ区切る ・あいさつや興味のある物から発音を促す	△ ○ ○	・話のまとまりが分からない	・絵カード等の活用	・発音できた言葉を伝え合う

小学校1年

子どもの姿	これまでの指導	効果 ◎○△	背景要因として考えられること	支援・手立ての例	保護者への言葉掛け
<p>【言語表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児語での発音が多く、早口である。 ・語彙が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の文字指導と併せて発音指導実施 ・教室に図書コーナー設置 	<p>◎ ○ ◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達が遅かった ・幼児期の家庭環境 ・本が大好き 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話し方の模倣ごっこ遊びを取り入れる（放課後） ・1年後を見据えた指導 ・顕著な幼児音を発した場合のみ個別に発音指導を実施 ・言葉遊びの充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりと話しかけるように伝える。 ・図書館との連携を勧める。
<p>【対人関係・指示理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを早く伝えたいあまり、相手の思いを察して行動するのが苦手である。 ・自分のしたいことが先で、しなければならぬことが遅くなりがちである。（聞いて考えて行動することが苦手） ・注意されると固まったり、泣き喚いたりする。しかし、涙はあまり出ず、すぐに表情が変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞かせるようにする（代弁する） ・タイマー活用 ・繰り返し練習 ・注意する言葉かけに注意 	<p>△ △ △</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の家庭環境（自分中心） ・一方的な話し方 ・しなくても困り感を感じない ・家庭でも叱られることが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話し方の模倣ごっこ遊びを取り入れる（放課後） ・相手の思いを一緒に考える ・支援員配置 ・6月支援員の配置解除 ・待つことを止めた →大きな変化あり ・注意するわけを伝え、後は黙って見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳等にて、日々の様子を伝え、保護者の不安感を減らすようにする。 ・待つこと、支援員配置解除を伝える
<p>【数の認識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の理解、数の合成分解に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作で学習 	<p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前までの物の数に関心を示すことがなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後、個別指導実施 ・日常生活の中で、意図的に数を数える場面を仕組む。 ・学習ゲームを取り入れ、分かると楽しいことを知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも、日常生活の中で、意図的に数を数える場面を仕組むように協力を求める。

小学校5年生

子どもの姿	これまでの指導	効果 ◎○△	背景要因として考えられること	支援・手立ての例	保護者への言葉掛け
<ul style="list-style-type: none"> 音読が得意 自分の思いを書くことが好き。 話すことが好き。 歌が得意。 漢字が覚えられない。 音、訓読みの両方を覚えていないため、知らない熟語は読めない。 		◎○△	<ul style="list-style-type: none"> 本をよく読んでいる。 母親も姉と一緒によく図書館に連れて行っている。 音、訓の違いや漢字の意味など意識していない。 漢字の練習量が足りない。 鉛筆の持ち方が正しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌や書いた文章を褒め、自信をもたせる。 音読がさらに得意になるように、文節で区切ったり、標記の間違い探しをしたりする。(読みのアセスメント) 	<ul style="list-style-type: none"> 表現集会や学習発表会での活躍場面を伝え、実際に見ていただき、ともに喜ぶ。
<ul style="list-style-type: none"> 数の合成分解が分からない。 繰り上がり、繰り下がりの足し算や引き算の答えを指で数え引きしている。 お金を数えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> タイルを使って合成分解を繰り返す お金を数えたり、言われただけのお金を出したりする。 買い物ごっこをする 	○ ◎ ◎	<ul style="list-style-type: none"> 数を理解しにくい特徴がある。 数(お金など)にふれるチャンスが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> タイルや具体物を使って、合成分解を繰り返す。 お釣りを出したり、〇〇円なら買えるというように、そのものより多く持って行くことができるようにする。(買い物ごっこをレベルアップする) 	<ul style="list-style-type: none"> 「お金の計算は将来の生活につながるの、学校で勉強したことを実際の買い物で練習してみてください。それでもし気づいたことがあったら教えてくださいね」と声をかけ、一緒に指導していく。
<ul style="list-style-type: none"> 忠告などは聞きたがらない。 できないことを隠したがる。 冗談などが分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> できないことを隠すことはよくないことだと伝える。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 間違っていると思われたくない気持ちが働いている。 他の人の気持ちを類推する力が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> SST トレーニングで自己認知やコミュニケーションについて学び、気持ちのコントロールができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見てもらい、どんな学習をしているかを知っていただく。
<ul style="list-style-type: none"> 姿勢の保持が苦手 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢をよくするように注意する。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 筋力不足 	<ul style="list-style-type: none"> 体育やマラソン、なわとび大会などの行事に意欲的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みに、マラソンと縄跳びの宿題を出す。